

本年度の重点	1	①児童の個性と人権を尊重した教育活動の展開を図る。
目標（評価規準）	「自分を大切に、同じように、他の人も大切に」気持ちの育成を意識した教育活動を実現する	
重点に係る現状 設定理由	本校児童は、素直で、優しく、前向きな子が多い。また、協力的、協働的で、物事を一生懸命取り組むことができる。半面、やや自主性、積極性にかける部分もある。他の人を大切にすることはもっている、その前に、もっと自分に自信をもち、自分の考えを持てる等、自分を大切にすることを育成することで、さらに人権を尊重した教育活動の展開を図りたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>・「よりよい人間関係構築、いじめ根絶のため児童が互いに認め合い、高め合えるような授業や行事を工夫している」という項目では、すべての教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識した教育活動が行えていると思われる。</p> <p>・「認め合い、高め合いのため、児童がかかわり合う授業を取り入れている」ともすべての教職員が評価していることが、多様な価値観を認め、互いの良さを見つけようとしている児童の育成につながっていると感じる。</p> <p>・児童指導委員会を中心にいじめ根絶に向けた取り組みを行った。また、道徳等の授業の中では、「思いやり」、「言葉の大切さ」、「多様性を認め合う意識」等、人権意識を向上させる取り組みも多くみられた。</p>
各アンケート等の結果	<p>・児童は「認め合い高め合う授業」や「支持的風土の構築」の項目で、高い自己評価をしていた。友達の話をよく聞き、良さを認めようとしている姿勢が育ってきている表れであり、友達や周りの人の良さや多様性を認めようとする意識が高まっているのを感じる。</p> <p>・保護者アンケートは、おおむね良好である。特に、「子ども達が互いに認め合い、高め合えるような授業の実施に努めている」の項目で、高く評価されていた。さらに、学校が行っているいじめに対する授業や多様性を認めあう授業等の取組について、通信等で広報していきたいと考える。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○日常生活や各行事の中でも、仲間と一緒に同じ方向に向けてがんばろう、やりとげようという気持ちが育っているのを感じる。また、授業の中でも、話し合い活動やかかわり合いをすることが、分かりやすい楽しい学びにつながっていると感じている児童が増えているとも感じる。ただ、「自分から」という気持ちが弱い部分もあり、まだ、周りに流されやすい部分もある。いじめの未然防止のためにも、「自分を大切に、また、同じように、他の人も大切に」という人権教育を土台に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・児童一人ひとりの思いを実現できる授業を展開する必要がある。認め合い、高め合いを意識しながら、はじめと終わりには、自分の考えを確認できる授業を常に目指していきたい。</p> <p>・児童会行事のさらなる充実を図る。児童一人ひとりがより良い学校生活を実現するために児童の自主性を尊重した行事計画が必要である。さらに、児童の考えや思いを、自分から、自分の言葉で発表する機会を多く設定することで実現への支援をし、達成感を味わわせたい。</p>
学校関係者評価結果	<p>おおむね良好である。子どもたちが、友達とのかかわり合い、学び合いを、楽しく感じている姿が伺える。これからも、一人ひとりを大切にすることはもちろん、友達とのかかわり合いを大切にできる子どもの育成の取組を継続してほしい。</p>
最終改善方策	<p>以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業・行事等の改善に取り組むたい。</p> <p>○授業や行事をとおして、「自分を大切に、同じように他の人も大切に」という人権意識をさらに高めていく。</p> <p>○自分の考えをしっかりと持つことにより、かかわり合いで、より学びが深くなることを実感させる。</p> <p>○児童会担当を中心に児童が自主的に学校生活を改善できるような行事を、児童指導部中心に、いじめの未然防止、多様性の認め合いについての校内研修等を引き続き行っていく。</p>

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	②学力の定着と伸長のため、教師の授業力向上を推進する。
目標（評価規準）	子ども達の「深い学びの達成」のため、「主体的な学びにつながる授業づくり」を進める。	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、自主性、積極性にやや欠ける部分があることが弱みである。学力の定着と伸長のためにも、その弱みを改善し、「自分から」という意識を持たせることが必要であると感じている。そのためにも、新学習指導要領の求める「学力の3要素」を教職員が十分に理解し、授業力向上を図っていく中で、「主体的な学び」を児童に身につけさせていきたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的な深い学び」を意識しての、「認め合い、高め合いのため、児童がかかわり合う授業」どの教職員も取り入れていると評価している。「対話的」については、校内研究の成果で、発言の際に相手意識を持ち、話す相手を明確にすることで、友達の見聞を聞くという態度が育成できている。 ・研究推進委員会を中心に教科にこだわらず、「主体的に学ぶ子」をテーマに、主体的な学びにつながる授業づくりに取り組んだ。 ・基幹学力を高めるため、読む力・書く力の基礎となる初小俳句、視写等に全校で取り組んだ。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の項目においては保護者アンケートからは「基礎学力の定着に努めている」「子ども達が互いに認め合い、高め合えるような授業の実施につとめている」等の項目で、高い評価が得られた。児童アンケートからも「意欲的に授業に取り組んでいる」と自己評価している児童が多くみられた。 ・家庭学習については児童の自己評価結果はおおむね良好だったが、保護者アンケートの評価が低かった。「宿題の量が少ない」等の意見が多く、「宿題」と「自主的な学習」の両立をすすめる必要があると感じる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○授業改善の項目について、全体的に教職員、保護者、児童ともに昨年度に引き続き高い評価となっている。「主体的な学びにつながる授業づくり」を継続していきたい。家庭学習の充実についての評価が、教職員及び保護者の評価が若干低くなっている。基礎基本を身につけるための宿題と、自主的な学習をすすめる自学の取り組みをバランスよく提示していくことで、「宿題＝家庭学習」ではなく、「宿題＋自主的な学習＝家庭学習」であるという意識を、保護者にも広げていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な学びにつながる授業づくり」を進めることが、「主体的、対話的な深い学び」の、特に「深い学び」につながることを意識して、校内研究として取り組んでいく。 ・「自分の考えを持つ→話し合い・関わり合い→自分の考えを深める」ことを意識することで、「自分から」学ぶ意識をさらに育てていきたい。 ・小中連携をしやすい環境を生かして積極的に中学校授業の参観、中学校からの乗り入れ授業も行い、その良い点を小学校に取り入れられ、小中連携から、小中一貫教育についての研究を進める。 ・学校だより、学級通信等で家庭学習の目的等についての積極的広報活動を行う。
学校関係者評価結果	<p>おおむね良好である。子どもたちと先生たちとの信頼関係の中で、授業が進められているの感じられるのは、学校の取り組みが功を奏している結果である。子ども達の主体性をさらに伸ばしてほしい。</p>
最終改善方策	<p>以下の3点について具体的方策、年間計画を策定し、授業改善に取り組むたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「深い学び」を達成するための「主体的な学びにつながる授業づくり」を教職員全員ですすめる。 ○「認め合い、高め合い」のための授業のためにも、「自分から」という意識をさらに育てていく。 ○家庭学習について教職員の共通理解を図り、家庭と協力しながら、基礎基本の習得及び自主的な学習ができる意識・態度を育成する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	③130周年にあたり、総合的な学習の時間、生活科で、「ふるさと初声」をテーマに学習に取り組む。
目標（評価規準）	「自分たちで考え、話し合い、自分たちの言葉で発表する」態度の育成を常に意識する。	
重点に係る現状 設定理由	本校の創立130周年の取組の2年目となる。保護者・地域に向けて、記念全校集会を行うにあたり、「ふるさと初声」をテーマに学習した内容についての学習発表会として行う。その取組の中で、本校児童の弱みである、「自分たちで考え、話し合い、自分たちの言葉で発表する」態度、力の育成を意識していく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・130周年記念行事への取組の中で、「人間関係構築」や「認め合い・高め合い」のための取組については、教職員は良く取り組めたと評価している。 ・6年生児童中心に、「自分たちで考え、検討し合い、自分たちで創り上げる」意識が育ち、主体的に取り組む姿が見られてきたと感じている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・130周年記念全校集会については、ほとんどの保護者から、子ども達のがんばりや伝えようとする想いが十分に伝わってきたと高い評価を得ることができた。 ・児童も、総合的な学習の時間や生活科の時間の中で、自分たちで考えた課題について、調べ、考えたことを、自分たちで考えた方法により、全校集会で発表できたことに大きな達成感を味わっていた。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○全校集会の取組については、準備の段階から、様々なアイデアを出し合い、話し合いを重ねるなど、主体的な児童の姿がよく見られた。また、発表時にも、自分の想いを、自分の言葉で伝えようとする姿も見られ、意識がより高まっているのを感じた。特別な行事だけでなく、普段の授業や生活の中でも、児童が主体的に取り組めるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でも、児童が自分から興味をもって取り組みたいと思える課題を設定し、自分でまず考えを持ち、話し合い・学び合って、さらに深めた自分の考えを、自分の言葉で発表する展開を設定していくようにする。 ・毎日の学級での生活の中でも、児童一人ひとりが、自分の役割を果たすことで、自己有用感・自己肯定感をもてるような学級経営を進めていく。
学校関係者評価結果	<p>おおむね良好である。特に創立130周年記念全校集会では、子ども達一人ひとりが自分の言葉で、自分の想いを発表しようとしている姿がよく伝わってきたので、今後も主体性を伸ばす取組を継続してほしい。</p>
最終改善方策	<p>以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業改善に取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○創立130周年事業の最終年度として、「ふるさと初声」をテーマに課題解決学習をすすめる。 ○全校集会の取組を通して、「自分たちで考え、話し合い、自分たちの言葉で発表する」力の育成を図る。 ○日常の授業・生活の中でも、児童が自己有用感・自己肯定感を持てるよう意識する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	4	④学校内外の安全確保、地域の核としての学校をめざし、家庭・地域との連携を深める。
目標（評価規準）	「初声小学校の一員で良かった」と言われるような、信頼される学校づくりに努める。	
重点に係る現状 設定理由	児童にとって学校は安心安全な場所であればならない。施設設備の点検、防犯防災などの児童の安全確保が重要である。また、地域を素材を生かし、教材化しながら、地域を巻き込む教育活動も含めて地域の信頼を得ていきたい。また、創立130周年事業の推進により、地域との一体感を高めていきたいと考える。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域人材や素材を教材化しようとしている」という項目について、教職員は、教材化まではできていないという部分で、あまり高く評価していない。 ・防災については、日常的に地震、津波から、自分の命は自分で守る、という意識を子どもたちの中に育てていきたい。 ・通学路も含め安全点検については積極的に取り組んでいる。しかし、集団登校班の調整や問題は、年々難しくなっていると感じる。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、「地域の人材や素材を積極的に活用している」、「学校、学級だよりで学校の様子を伝えるよう努めている」の項目で高い評価を得ている。外部指導者や地域の施設見学を積極的に活用し、そのことを、学校、学級だよりで広報していることが、高評価につながったと思われる。 ・老朽化に伴う施設設備の点検整備については厳しい評価がある。校内の環境整備や通学路の安全確保などに問題点の指摘があるので、関係機関、保護者、地域の力をかりながら対応していきたい。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○広い学区を抱える中で、集団登校及び下校時の交通指導、日常の防犯防災教育の意識の向上には常にと組んでいるものの、まだまだ課題も多い。地域の協力も求めながら、より安心して通学させられる学校を目指していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年度だけの外部指導者ではなく、地域素材、人材を毎年活用し、教材化していきたい。来年度は、創立130周年の取組の最終年度なので、総合的な学習、及び、生活科のテーマ「ふるさと初声」の中で、定着できる地域の教材化を進めていきたい。 ・海洋教育の取組も、地域素材、人材の活用としてさらに推進を図っていきたい。 ・特に津波を意識した避難訓練等を自分ごととして、児童・教職員で取り組みをさらにすすめたい。また、縦貫道の開通に伴い、交通量が増えることも予想されるので、保護者、地域の支援を受けながら、安全教育・指導もさらに取り組んでいく。
学校関係者評価結果	おおむね良好である。施設・設備等、学校だけでは改善は難しいと思うが、点検は常時行ってほしい。交通指導中心に安全指導も引き続き行ってほしい。
最終改善方策	<p>以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業改善に取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間、生活科のテーマ「ふるさと初声」に取り組む中で、地域素材、人材の教材化を進める。 ○上記に合わせて、海洋教育の推進を図る。 ○日常的な交通事故防止、防災意識の向上等、安全指導の徹底を図る。